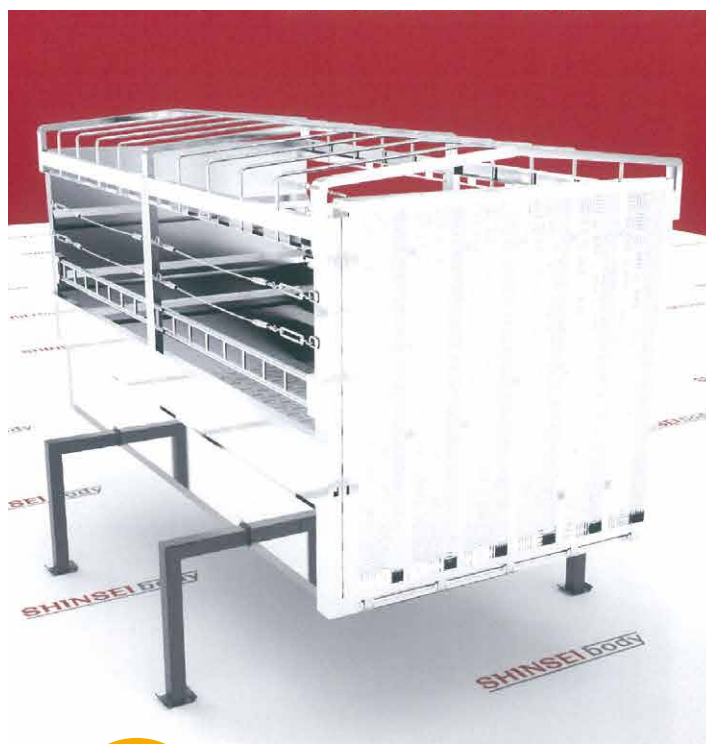


必要な時に必要な車の形に 小型トラックに搭載する家畜運搬ボディを開発



小型トラックに装着するだけで家畜運搬車が完成

事業概要

平成29年度
補正

脱着式家畜運搬装置の試作開発

脱着式家畜運搬装置の試作開発により、全国の小中規模の肥育農家に向けた、一般的な平ボディに搭載可能な簡易型の脱着式牛用運搬枠が完成した。これにより、畜産農家が所有するトラックの用途の多様化と維持費の軽減が図れることが確認できた。

トラックの各種荷台を手掛ける “ボディ屋”だから出来たこと

日本の物流を支えているトラック輸送。当社は、そのトラックの用途に合わせ、各種荷台の製造販売を手掛けています。特殊な積み荷のためのボディは、すべてオーダーメイドで当社のような架装メーカーで製造されています。その中でも家畜運搬車の製作に数多く取り組み、ユーザーの声にヒントを得て、小型トラック（2～3トン積み平床式平ボディ）の荷台に搭載可能で「離脱着できる牛積み枠」を開発し、製品化することができました。



特殊な積み荷のボディは一つひとつオーダーメイド

小規模な和牛肥育農家の 車両にかかる費用負担を軽減

世界でも“Wagyu”として高い評価を受ける日本のブランド牛の多くは、飼育頭数20頭以下の小規模な肥育農家で、大切に育てられています。子牛市場からの仕入れ時と成牛の出荷時の、月2回程度しか使用しない専用の家畜運搬車を所有・維持することは、費用負担が大きいのが現状です。そこで日頃、運搬などに使用している小型トラックに、必要な時だけ搭載可能な家畜運搬ボディがあれば、車両にかかる費用負担を軽減出来ることに着目し、この事業に取り組みました。

今回、ものづくり補助金を活用して試作開発を行い、軽量化に伴う躯体の強度と耐久性の確保、糞尿による腐食防止対策、蹄に対するスロープ部分の滑り止めなど、開発途中に発生した問題点を解決し、【Bull Carry（ブルキャリー）】が誕生しました。



試作と製品化のために補助金で溶接機を導入



様々な素材の溶接加工を行い
最適な素材にたどり着いた

“ありそうでなかった”製品に大反響 新規顧客の獲得へ一歩前進

日本畜産振興会発行の「養牛の友」2021年6～8月号に広告を掲載したところ、全国から大きな反響が寄せられました。肥育農家だけでなく、JAや畜産試験場からの引き合いもあります。「普通の家畜車は高く買えないという農家さんだけでなく、使用頻度の少ない車には、予算は出せないという行政から、今回開発した【ブルキャリー】は、ありそうでなかった商品であり、本当にすごい反響でした」と大津代表。

これまではトラックのディーラーを経由した仕事がほとんどだったが、全国のエンドユーザーとの直接取引を視野にECサイトを整備し、【ブルキャリー】のPR動画を制作し、受注開始は11月を予定しています。また【ブルキャリー】に使用している非常に硬いスウェーデンスチールを加工する金型も導入して、軽量で丈夫なボディの加工が可能になりました。



社員の技術力が現場を支える



日々の仕事のやりとりから新製品が生まれる



新生自動車工業株式会社
代表取締役 大津 晃一 氏

会社の強みは何ですか？



技術力です。東日本大震災では、被災状況がひどく再建に2～3年かかるだろうと、やむを得ず一旦、全員解雇したのですが、その当時の技術者の要だった社員が戻ってきました。技術力や開発力も戻りつつあり、「ブルキャリー」はその先駆けの商品になります。

これから取り組んでいきたいことは？



平成30年度補正のものづくり補助金では、CADを導入しました。外注化を進めていく上で図面を的確なものにし、また三次元での動きや負荷の掛かり方をシミュレーションするシステムを活用して、新たな商品開発に繋がっていきたいと思っています。